

近江楽座

まち・むら・くらしふれあい工舎

学生も 大学も 地域も
いっしょに育つ

「近江楽座」= 学生の力を生かして、地域に学び、育ち、貢献できる場

「近江楽座(おうみらくざ)」とは？

滋賀県立大学の“スチューデントファーム「近江楽座」-まち・むら・くらしふれあい工舎-”は、地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定して、全学的に支援する教育プログラムです。

2004年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に採択され、2006年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取組みとして、学内外で高く評価されました。そして、翌2007年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、これまでに培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、更なる活動を展開しています。

BAMBOO HOUSE PROJECT ~ 10年の軌跡 ~

2012
■「竹の庭」プロジェクト
古来より日本人の生活は竹と共ありました。竹は生活の必需品を生み出す大なる資源であり、竹を素材として様々な文化が育まれてきました。人の活動と共にあった竹林の風景はまさに、日本人の原風景のひとつでした。しかし、現在日本中多くの竹林が放棄され、荒廃が進んでいます。さらに荒れ果てた竹林には人々が寄り付かなくなり更なる荒廃を招いています。これは、希薄となりつつある地域の結びつき「共助」の文化の衰退をも暗示して思わせるものです。このプロジェクトは、地域住民の自らの手によって竹林本来の姿を取り戻し、永続的に循環する為のきっかけとしてスタートしました。単なる公園整備ではなく、人と自然がお互い無難することなく高めあうことにより生きた環境を作り出すことが目標です。明るい光が差し込む竹林には、子供達の笑い声が響きわたり、生活の息吹が戻ってきます。自然を維持する共同作業は、住民相互の「共助」文化を育む。竹林に人々の活気が戻ってくることで、竹もまた、活き活きとした賑やかな舞を取り戻し、生きた自然は人々を癒す。「生きる自然は地域を育む」、自然と人々が共に生きる、「生きる自然」の再生がBAMBOO HOUSE PROJECTのテーマです。



▲「竹の庭」敷地

2013
■BAMBOO HOUSE 1号新設
活動としての初めての竹建築であり学生設計・セルフビルドによる生えている竹をそのまま柱として利用した、竹林に浮かぶバンパーハウス1号「竹古壺」が制作された。

2014
■バンパーブリッジ・竹トンネル新設
地域の方々が集うことが出来る「竹の庭」としてグランドオープンするため、竹林の全体整備を進めながら昨年竹古壺に引き続きバンパーブリッジ・竹トンネル・竹のステージの制作を行った。

2015
■BAMBOO HOUSE 2号新設
「竹の庭」全体を見渡すことが出来るバンパーハウス2号別名「竹縁景」の制作に当たった。全長15mからなる竹縁景が地上3mの高さで浮いている。普段とは違う竹林の景色が見ることが出来る。

2016
■甲西北中学校への環境学習講話の実施
より多くの人にこの活動を知ってもらうため、地域の中学校へプレゼンテーションを行ったり、環境学習講話や合同竹林整備を行うことで、放棄竹林という身近な環境について知ってもらう機会となった。

2017
■BAMBOO HOUSE 1号大規模補修
新設から約5年が経ち、大規模な補修を行った。老朽化により屋根と床を一部解体、再構築することで竹林浴の出来る展望台へと生まれ変わった。

2018
■竹旋門・竹ブランコ(旧)新設及びBAMBOO HOUSE 2号補修
子供たちが遊ぶアクティビティを追加する中で、揺れる遊具が欲しいという要望があり竹ブランコ(旧)が新設された。また、2号の経年劣化を鑑みて補修作業も並行してこの年よりスタートした。

2019
■竹ハンモック・スクリーン新設及びBAMBOO HOUSE 2号補修
昨年に引き続き、好評であった揺れる遊具の第2弾という形で竹ハンモックが新設された。2号の補修作業も昨年の作業を引き継ぐ形で新設と並行で行われた。

2020
■BAMBOO HOUSE 1号解体
BAMBOO HOUSE PROJECT 最初の制作物として新設されたから補修や一部解体・再建設を行い、形を変えながら約9年「竹の庭」の顔として親しまれていたが、老朽化に伴いやむなく解体を行った。

2021
■BAMBOO HOUSE 2号大規模補修及び竹ブランコリニューアル新設
2015年に新設された2号も補修を繰り返して約7年その形を保っていたが、人が登るには危険と判断されブリッジとの切り離し作業を行った。「竹の庭」の象徴として今も残っている。

竹の循環システム



繋がり

私たちは「竹林整備を通して、地域が繋がる」ことを目標に、活動を続けている。現在、菩提寺まちづくり協議会や甲西北中学校といった地域の方々と共に竹林整備を行うことで「竹の庭」を維持している。「竹の庭」で、世代を超えた様々な人達が交流することで、地域と共に育んでいくきっかけ作りを行ってきたい。



SDGs との関わり

- 4 質の高い教育をみんなに**
<4.質の高い教育をみんなに>
甲西北中学校の中学生と地域の環境問題について考え、合同竹林整備を行い、最後に振り返りを設けて中学生に未来の竹林整備について考えてもらうことで貢献する。
- 11 持続可能なまちづくりを**
<11.住み続けられるまちづくりを>
「竹の庭」が地域の中心となるような場所になるように努めるほか、「竹の庭」を通して地域の人々と学生が交流する場となるように整備することで貢献する。
- 12 つるむすびをつなぐ責任**
<12.つるむすびをつなぐ責任>
竹林整備で出た竹を制作物として使用し、制作物の補修や解体で出た竹に関しては竹チップにして「竹の庭」に散布することで貢献する。
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう**
<17.パートナーシップで目標を達成しよう>
菩提寺まちづくり協議会や甲西北中学校など地域の中にあるコミュニティに対して学生が介入を回り、一緒に環境問題に対して取り組むことで貢献する。

竹建築ができるまで ~竹ステージ・竹ブランコ~



- ①敷地選定・計測**
竹林のどこに建てれば多くの人に遊んでもらえるかを考えて敷地を選ぶ。選んだ敷地内のどの位置に竹が生えているかを計測する。
- ②竹刈り・部材切出**
竹林整備で出た竹から必要な太さ・長さの材を切り出していく。竹が足りなかったら必要な分だけ竹林から伐採を行い材をそろえる。
- ③柱の選定・基礎打ち込み**
柱となる生えた竹をえらぶ。建物を支えるのに、必要な部分に竹が生えていなかったら、地面に基礎となる竹を打ち込む。
- ④大引き**
床の1層目を柱・基礎に括りつけていく。人が乗っても大丈夫なような太い竹を使って、ロープで「石丸結び」という独自の結び方で竹同士を結んでいく。
- ⑤根太**
床の2層目を1層目の大引きと交差するように括りつけていく。④と同様に「石丸結び」で竹同士を結んでいく。
- ⑥デッキ**
床の仕上げ材として、丸竹を割って作った割竹を並べて竹デッキを作る。足が抜けないように隙間なく敷き詰めてロープでしっかりと固定していく。
- ⑦ブランコの梁**
ブランコを吊るすための梁を柱と括りつける。太めの竹を使って「石丸結び」で竹同士を結んでいく。
- ⑧ブランコのセット**
あらかじめ作ってあったブランコにロープを通して、⑦で結んだ梁に吊す。ブランコの高さを調節して完成。